

黎明紙307号 御研鑽

社会の秩序を保つ上において、法律は非常に私共にとって大切な役割をしているわけでございます。その中でも一番要の法律が、申し上げるまでもなく憲法であるわけでございます。ただこの憲法に關しまして最近色々な論議が交わされているわけでありまして、このままこの「憲法を変えない方がいい」という方もおられますし、「変えていった方がいい」という方もおられるわけで、これは人間それぞれのお立場もありますし、色々な考えをもっておられる方があるのは当然でありますけれども、しかし私共はこの

憲法を少しでも立派なものにしていかなければいけませんし、また一旦決めたからにはそれを守っていくということが大切だと思います。

けれども、今日は人間の決めました憲法や法律を云々するということよりも、そのもう」つ奥に、私共の魂の問題が非常に重要であるということ、明主様は仰っておられるわけでありまして、そのことについて御教えの中から2つほどの御教え（うち1つは次号に掲載）をご一緒に拝読させていただきたいと思います。

いくら立派な法律、憲法をもっておりましても、私共人間の魂の方が大変曇っている、あるいは自分だけ良ければいいということで、目先のことだけを考えて人が不幸になってもそんなことは構わないとか、あるいは少しぐらい人を犠牲にしてもいいとか、あるいは法律を何か自分のためにだけに悪用するとか、そういうような魂の人間が多かったのでは、いくら良い法律をもっておりましても、決してこの世の中は良くなっていけないわけであります。

良い法律を作っても、それをより人間の幸せのために活かしていけるように、私共一人ひとりの魂が浄まって高ま

っていかなければいけないわけであります。そのことにつきまして、明主様がいくつかの御教えをお説き下さっているわけでございます。

そのうちの一つに『道治国』という御教えがございます。これは、世の中には法律で治める国、法治国という言葉がございまずけれども、明主様はそれに対して、この道で治める国という『道治国』ということ仰っておられるのだと思います。この御教えは今までも何回も拝読させていただいておりますけれども、法律を守るということも非常に大切であるけれども、そのもう一つ奥に神様の定め

られた道、これを「律法」とも明に様は仰っておりますけれども、そういう神様の定められた道を信じ、その道を守るといことが非常に人間にとっては大切だということを仰っております。で、

昨今、この世の中は大変社会が乱れているとか、色々そういうことが言われているわけでありまけれども、それを解決するのに一番大切な根本は私共一人ひとりの魂が、神様を信じ、神様の定められた道を信じ、その道に従っていくということであるということをお説き下さっているわけでございます。

法律も、もちろん大切であります。けれども、先はども申し上げましたように、私共の魂が神様を信じない、目に見えぬ物を信じないという魂でありますと、結局いくら良い法律をもっても、その法律を悪用すること、あるいはその法の網の目を如何に潜り抜けるかということの方に専念してしまつて、結局この世の中を良い世の中にすることはできないわけでございます。

私共一人ひとりの魂が、神様の御実在に目覚めさせていだきまして、そしてその神様の定められた道、律法に従わせていただくという人間にならせていただいて初めて、

この世の中は良い世の中になっていくということを、明主様はここで仰っておられるわけにあります。

神様は、この宇宙を造られました時に、一つの道というものを定められたわけにあります。その道、あるいはその律法に因って、この世の中は動いているわけがございます。それでこの宇宙全体、世の中全体の秩序が保たれているわけでございます。しかし、そのことを信じないで、ただ目に見えることだけに關心をもって、目に見えることだけを対象としてまいりますと、結に何人に見られている時には悪いことをしないけれども、人に見られていなければ

ば、少しぐらい悪いことをしても要領良くする方が得だという考え方に、私共はつい落ち込んでしまうわけでございます。誰でも私共は悪いことをして、それがすぐ暴露する七いうことがはつきりしていれば、人間ばなかなかそういう悪いことはいたしよせん。けれども、結局その根底にはうまくいけば隠しとおせるかもしれない、要領良くやっただ方が得なんじゃないかという考え方が根底にありますと、どうしても人間はその悪の方に落ち込みやすいわけでございます。それから私共は目先の方だけにとらわれてしまふことが多く、長い目で見ると決していい結果ではない

ことがあるわけです。けれども、つい人間は目先の方にと
らわれてしまって、それで要領良くやるということになっ
てしまいがちなわけでございます。それでそういうことに
陥らないようにする一番根本、一番大切なことは、私共一
人ひとりが神様の御實在に本当に魂の底から目覚めさせて
いただくということでございます。

これはいつも申し上げておりますけれども、私共は神様
を信じさせていただいているというふうに思わせていただ
いておりますけれども、何かの時にはふっとそういうこと
を忘れるわけにあります。それで、つい人に見られていな

ければ大丈夫じゃないかというふうに考えてしまうわけ
あります。これからの来たるべき地上天国、昼の世界とい
う世界は、一人ひとりの人間が、全て神様の御実在に目覚
めさせていただいて、それで神様の定められた道理、道に
従わせていただくという世の中であるわけでございます。
ですから、これから来たるべきそういう地上天国、昼の世
界に生かしていただく資格というのは、神様を本当に信
じ、神様の定められた道に従わせていただくということ
でございます。そういう人間が地上天国の住民として残して
いただけるわけでございます。

最近、社会が色々な面で大変乱れてきており、これを何とかしなければいけないというようなことが色々言われているわけにあります。世間一般では教育の問題とか、色々言われているわけですが、この（番大切な魂の問題また神様を信じさせていただくということが如何に重大かということにまで触れられる方が、案外少ないわけでございます。

例えば最近の子供さんが道に外れてしまわれた場合に、親としてあるいは学校の先生のお立場から申しまして、もっともってそういう若い人達と接していかなくてはいいけな

いとか、色々ざっくばらんに話し合えるようにしておかなくてはいけないとか、そういうようなことを言われることがあるわけです。そのこと自体はその通りであります。けれども、ただその時に接する側の親や先生の立揚の方が、本当に心が少しでも神様の方に近づかせていただいております。綺麗な気持ちをもっておられなければ、これは反って接すれば接するほど反って逆になってしまわれるということとすらあるわけでございます。

ですから、私共自身が少しでも浄まらせていただいていくということが大事になってくるわけでございます。もち

ろん」挙に浄まらせていただくということはなかなかできません。けれども、少なくとも私共が、常に神様の方に魂を向かわせていただいて、少しでも神様の御心に近寄らしめていただこうというように努力させていただいて、初めてそういう若い方達と接して、少しでもその方達も神様の方に近寄っていかれるということが可能になってくるということだと思ふのでございます。ところが世間の色々仰っておられることの中では、一番そういう肝心なことが抜けているのではないかと思ふのでございます。

